

研究区分	教員特別研究推進 教育推進
------	---------------

研究テーマ	歯科衛生士教育における模擬患者（Simulated Patient: SP）参加型シミュレーション教育の学習方略の検討				
研究組織	代 表 者	所属・職名	短期大学部 歯科衛生学科 ・准教授	氏名	長谷 由紀子
	研究分担者	所属・職名	短期大学部 歯科衛生学科 ・准教授	氏名	仲井 雪絵
		所属・職名	日本医学教育学会 学会国際 化委員会・委員	氏名	吉田 登志子
		所属・職名	岡山 SP 研究会・理事	氏名	前田 純子
		所属・職名	岡山 SP 研究会・理事	氏名	末藤 佳江
	発 表 者	所属・職名	短期大学部 歯科衛生学科 ・准教授	氏名	長谷 由紀子

講演題目
歯科衛生士教育における模擬患者（Simulated Patient: SP）参加型教育の学習方略の検討
研究の目的、成果及び今後の展望
【背景と目的】患者-医療者間、医療チーム内の人間関係を基盤とする医療において、コミュニケーション能力の向上は不可欠である。本研究では、その教育方法として、模擬患者(Simulated Patient: SP)参加型シミュレーション教育を歯科衛生学生に対して導入し、その学習による学生の認識変化を分析、効果的な学習方略について検討した。 【方法と結果】2024 年度歯科衛生学科 2 年生 48 名を対象に、連続した 3 限(90 分×3)で講義と演習を組み合わせた SP 参加型教育を実施した。具体的には、医療コミュニケーションの技法や初診時の医療面接における質問項目に関する講義と、その後 SP とあるいは学生同士で初診時の医療面接のロールプレイと振り返りセッションで構成される演習を実施した。演習は 6 人のグループで 8 回(SP とのロールプレイを内 2 回)行い、学生は、歯科衛生士役、患者役、観察者役の役割を各 1 回以上担うこととした。講義および振り返りセッション終了後に学生が記載した振り返り記録の記載内容を、本授業からの学生の認識変化の視点から質的に分析した。学生は、講義で学んだ初診時の医療面接のポイントや質問の流れやコミュニケーションの技法を演習で活用することを意識していた。歯科衛生士役のロールプレイでは、あいづちや繰り返しなどの傾聴の技法や患者が答えやすい質問の工夫試みていた。しかし、専門的知識の不足から患者の主訴を深め、痛みの原因の特定に繋がる初診時の医療面接の質問ができない事例が多くあった。ロールプレイ後の患者役や観察者役からのフィードバックによって、コミュニケーションの技法の有効性や、一人一人に向き合い、自らの表情やあいづち、共感の言葉によって患者を受け止める態度によって患者が安心感や信頼感を得ることを学んだ。また、他者のフィードバックから自らのコミュニケーションの良い所と改善すべき点を客観的に知ることができていた。 【今後の展望】リアリティのある SP とのロールプレイや SP からのフィードバックによる振り返りによる学習効果はさらに高い。しかし、今回は人的・時間的資源の制限により、学生全員が SP とのロールプレイを実施できなかった。また、観察者がいる中で初対面の SP とロールプレイを実践することにプレッシャーを感じる学生は少なくない。そこで、今後は医療面接課題を事前に学生に提示し、その課題に対して学生がグループで作戦を練り、グループで立案した戦略でグループ代表者が SP とロールプレイを行う学習方略を検討している。この学習方略では、代表者だけでなくグループ内の観察者も当事者意識を持ったロールプレイが可能となる。このような協同学習の形態をとることで、学生自身が主体的にコミュニケーション能力の向上できる学習環境を整備していきたい。